

高津区おはなしアーカイブ

●後町 初江 (ごちょう はつえ) さん

昭和12年生まれ 80歳

川崎市高津区久本在住



◆ご家族のこと

生まれた時からずっとこの地におります。父、母、私、妹、妹、弟、妹の他に、祖父、祖母、それに叔母2人も一緒に暮らしておりました。一番下の妹だけが戦後生まれです。

元は農家でしたが、父がよく選挙の応援をしていたので、弟は県議員などやるようになりました。

母は助産婦でした。最初は慶應病院に勤め、その後独立して自営、いわゆる「お産婆さん」ですね。

私は職場結婚したんですが、夫は帯広の下駄屋さんの息子で、東京の大学を卒業した人です。結婚後は私の実家のアパートに

住みました。時間がある時には夫も畑や田圃の手伝いをしてくれるので喜ばれていました。

子どもは4人おりまして、男3人、女1人です。

長男はこの地域でコンビニエンスストアの店長をしております。

コンビニを始めたころは妹と私でやっていたんです。体を動かすのは嫌いじゃないから楽しかったです。働くことが元気のもとになっているのかもしれませんがね。

次男は栃木の宇都宮で自動車関係の会社に勤めております。もうすぐ定年になりますので、その後はこちらに帰ってくると言っております。

◆学校のこと

小学校は高津小学校に通いました。中学は洗足中学にいったんですが、3年の時に学園で紛争があったので、高校は洗足に行かず、高津高校に行きました。

そのころ女性は洗足学園か高津中学校、男性は攻玉社か高津中学校に進学する方が一般的でしたよ。

小学校の時は集団登校しておりました。高津小学校まで徒歩30分ほどかかっていましたね。当時は、諏訪や北見方の方からも通っている方がいました。その後、生徒数が増えるにしたがって、高津小学校から分かれて色んな小学校が増えていきました。

学校から帰ると、一人で勉強しているこ

とが多かったですね。妹や弟たちも遠くへは行かず、家の周りでかくれんぼなどしていました。

小学校へはずっと洋服で靴を履いて通っていましたよ。

自転車は小学生の頃から乗っていました。一人に一台ずつってわけにはいきませんが、家に何台かありました。この地域では恵まれていた方でしたね。やはり母が働いていましたから、そのおかげで幾分ゆとりがあったのでしょうかね。

私は勉強が好きだったので、外遊びはあまりしていないんです。勉強は国語より算数の方が好きでした。妹にはよく勉強を教えてやりました。一歳下の妹は私が教えたのと同じ問題のテストを受けたりするので、とても良い成績をとって、学校ではめられたり驚かれたりしていましたよ。(笑)

高校卒業後は田町の戸板女子短大被服科にいきました。この辺から短大に通う人は少なかったです。当時の農家は、食べるものには苦労しなかったけれど、現金収入はあまりなかったのですから、親には負担をかけたこととっております。

学校に行っていたころは、クラブ活動よりも、生徒会で頑張りました。会長などではなく、たいてい会計を任されていたんです。何しろ計算するのが大好きだったんですね。(笑)

◆卒業してから

卒業後、知人の紹介で東京の芝浦にあった製薬会社に勤めました。大井町から電車一本で通えるので通勤は楽でした。担当していたのは経理の仕事です。もちろん当時はコンピューターなどなくて、すべて算盤で計算していたんですよ。私は算盤が好きだったので楽しかったです。

勤めにはお弁当を持って行っていました。帰りには溝口で買い物をして、妹たちにお土産を買って帰りましたね。母が忙しかったから、母の代役みたいな立場でした。実家のお料理はすべて祖母が担当しておりました。

昭和34年に結婚し、会社には昭和36年まで勤めました。退職してからは子育てに専念しましたが、専業主婦とはいっても、家業の手伝いはしていたし、PTAのこともしていたので、けっこう忙しかったですよ。広報紙を作ったり、講演会や勉強会を開くなど、内容は今のPTAとあまり変わらないでしょうかね。現在も高津高校の同窓会のお役をやっています。

◆家業のこと

私は娘時分から畑のことも手伝ったし、親が賃貸していたアパートのことだの、その他のことも色々手伝っていました。

この辺りは、昔は農家が多かったんですが、私が高校生だった頃からだんだんアパートを建てる方が多くなりましてね、父も

不動産業というより、知り合いから頼まれて、賃貸の仲介をやるようになっておりました。私が結婚した昭和34年頃に正式に不動産業の免許を取ったんです。

私の子育てが一段落した頃に、賃貸を主にした株式会社をいたしまして、現在は娘が不動産関係を手伝っています。長男がやっているコンビニもこの会社の経営なんです。ここ5年ほどは24時間営業になりましたね。

◆戦中、戦後の記憶

この辺りは大きな空襲に見舞われたことはなかったです。サイレンが鳴って、自分の家の近くに掘った防空壕に入ったことはありましたが、そんなに長い時間は入っていませんでした。知り合いの誰かが怪我などをしたってこともなかったしね。

でも、B29が飛んできたのも見えましたが、東京の大空襲のときには真っ赤な火が見えました。

疎開はしていません。でも学校には通えなくて、近所の大蓮寺というお寺に集まって勉強していました。近所の子どもたちが12～3人一緒でした。まあ、勉強というより遊んだ方が多かったかもしれませんが（笑）。

私の父は兵役に出ましたよ。横須賀の海軍に行っておりました。海軍ですから手旗信号を覚えなくちゃいけなくて、家にいるときも練習してましたね。途中、何度か帰

宅することができましてね、そういう時は祖母がお米をお土産に持たせていましたねえ。

ただ、3か月ほどで終戦になっちゃいましたので、まもなく帰ってきました。

実は終戦当時のことはあまり覚えていないんです。小学校2年生のときですから、終戦ということがよく分からなかったっていうか…終戦だからって生活はあまり変わらなかったですからね。この辺りはあまり戦争の被害がなくてよかったですね。

また、都会の方が野菜やお米と替えて欲しいって着物などを持ってこられましたが、私たちは食べるもの、着るものに不自由するということはありませんでした。

戦後変わったことといえば、駅周辺に闇市ができたことでしょうか。

地元の人がやっていた大きいお店はそのまま残っていました。ツネカワ、お肉の手塚などね。

◆地域のこと

この地域は緑も残っているし、ご近所の方々もあまり変わっていません。

久本小学校や高津高校のある辺りは、田圃でしたし、野川や子母口の方にも農作業の手伝いに行っていました。皆、お互いに手伝い合っていましたから。

採れたものは瀬田の方の農協の集荷所に持っていきました。当時は自動車はなかったから、リヤカーも使ったけど、主に牛と

か馬とかに車を引かせて運んでいました。作物を運搬する仕事は親がやっていて、子どもたちが手伝うことはなかったですね。

道路は舗装などされていなくて、広さはあったけれどガタガタの道でした。埃がたったり雨でぬかるんだり、そういう道でした。

昔は畑を手伝い合っていたから農家同士のつながりがありましたけれど、代も代わっているし、農業をしなくなって手伝い合うことが、もうなくなりました。

おかげで近所の付き合いというのは少ないです。

この辺りも一人暮らしの方が増えましたね。でも、元気な一人暮らしが多いんですよ。私は民生委員も30年ほどやりましたが、都会っぽいというのかしら。困ったことはなかったですね。

ただ、私の時は困らなかったけど、住宅街じゃないから、人手が少なくて次の引き受け手を見つけるのが大変みたいです。

変化を感じるのは、駅前の様子ですかね。あそこには昔池があって、その池をつぶして闇市からスタートして商店街が発展してきた。今もその頃の名残は残っていますね。

◆暮らしのこと

我が家は本家になりますんで、お正月には親戚が集まってお重に詰めた料理をいただきます。祖母たちが暮れに三日くらいかけて作っていました。床の間に鏡餅を飾

ったりはしましたが、特別なしきたりの作法だの新年の挨拶だのといった形式的なことには、それほどこだわっていませんでしたね。

父が地域のお役目をしていたので、夏祭りや地域の行事にはお小遣いをもらって行っていました。タコ焼きなどが売られていました。お小遣いがいくらぐらいだったか思い出せないけれど、その頃は十円も百円もお札だったのですよ。

テレビは、この辺りでは早くに買ったほうでした。皇太子（当時）ご成婚のパレードの時に買った家が多かったですが、私はあのパレードは、テレビじゃなくて、東京まで見に行きました。

私は生まれた時からこの土地を離れたことがないのですが、ずっと変わらず離れずやってこれたのは、なんだかんだ、ここが居心地のよい地域だからですかね。

（平成29年9月29日取材）